

「日本版 CCRC」構想について

平成 27 年 7 月 10 日
企画振興部総合政策課

「まち・ひと・しごと創生基本方針 2015—ローカル・アベノミクスの実現に向けて—（平成 27 年 6 月 30 日閣議決定）」において、「日本版 CCRC」構想の推進について、次のとおり位置づけている。

2. 地方への新しいひとの流れをつくる

(2)「日本版 CCRC」構想の推進

高齢者の希望の実現や地方移住の推進を図る観点や、高齢者の「まちなか 居住」や地域・多世代交流を支援する観点から、日本版 CCRC 構想を推進する。これにより、東京圏をはじめとする地域の高齢者が、自らの希望に応じて地方に移り住み、地域社会において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療介護が必要な時には継続的なケアを受けることができるような地域づくりの実現・普及を目指す。

なお、日本版 CCRC 構想は、あくまでも地方への住み替えの意向のある高齢者の希望実現を図る選択肢の一つとして推進するものであり、高齢者の意向に反し移住を進めるものではない。

【具体的取組】

◎「日本版 CCRC」構想の推進

- ・日本版 CCRC 構想有識者会議において取りまとめられた「日本版 CCRC 構想(素案)」を踏まえ、日本版 CCRC 構想の具体的内容や政策支援の在り方を内容とする中間報告につき、今年夏の取りまとめに向けて検討を進め、成案を得る。その後、更なる検討を進め、年末に最終報告を取りまとめ、遅くとも来年度中に、日本版 CCRC 推進の意向のある地方公共団体において、モデル事業を開始する。これにより、東京圏をはじめとする地域の高齢者が、自らの希望に応じて地方に移り住み、地域社会において、地方大学等における生涯学習や、地域社会との共働、多世代との交流等を通じて健康でアクティブな生活を送るとともに、医療介護が必要なときには継続的なケアを受けることができるような地域づくりの実現・普及を目指す。
- ・既存の個別施策・事業を単に組み合わせるだけでなく、ハード・ソフト両面について、全般的・総合的に開発・調整を担う「司令塔 機能」の充実(コミュニティの核となる司令塔機能の整備やコーディネート人材の養成・配置等)等について更に検討を進め、結論を得る。
- ・日本版 CCRC は、東京圏等からの移住にとどまらず、地方居住の高齢者の「まちなか居住」や地域・多世代交流等を支援する取組として有用であることから、そうした点も重視する。
- ・日本版 CCRC 構想を推進していくため、現行の支援制度等に加えて、更なる支援策の在り方(地方創生特区、制度改正、移住・住み替え 支援策等)についても、地方公共団体や関係事業主体の意見も聞きながら検討を進め、結論を得る。
- ・地方公共団体に対して、日本版 CCRC 構想の検討状況等について必要な情報提供を行い、各地域における早期の事業具体化に向けて、相談や協議を進めるとともに、遅くとも来年度中に、モデル事業の実施など各種の政策支援を講じる。

日本版CCRC構想の基本コンセプト（案）

1. 「健康でアクティブな生活」の実現

高齢者が、健康づくりとともに、社会活動・生涯学習への参加等により、健康でアクティブ（活動的）に生活することを旨とする（支援プログラムの提供）。

2. 「継続的なケア」の確保

医療・介護が必要となった時に、終末期まで尊厳ある生活が送れる「継続的なケア」の体制を確保する。

3. 地域社会（多世代）との共働

地域社会に溶け込み、地域貢献・多世代との共働を図ることができる環境を実現する。このため、移住者に対し、きめ細かな支援（事前相談、お試し居住、地元住民との積極的な共働など）を行う。

4. 居住者の参画・情報公開等による透明性の高い事業運営

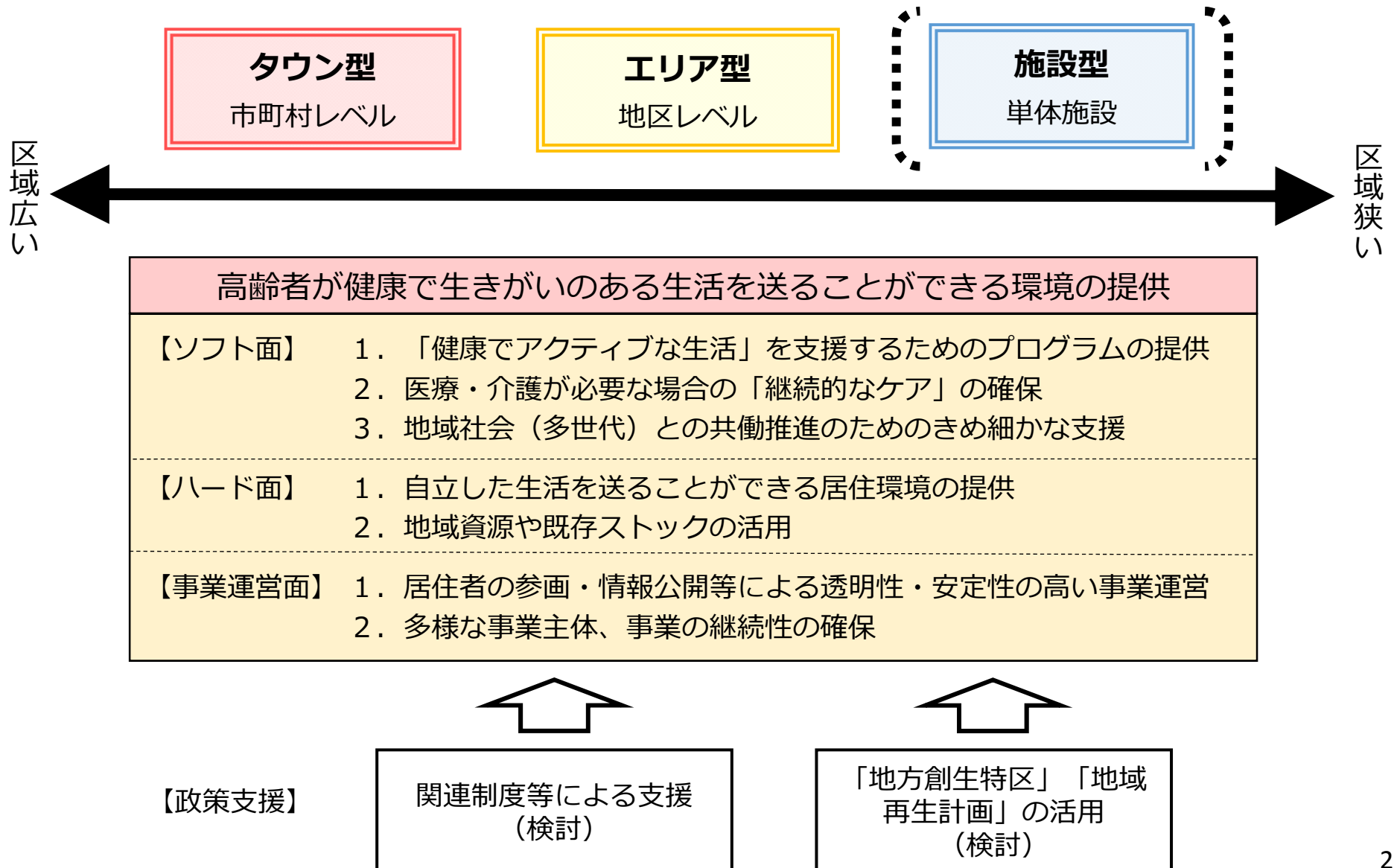
事業運営において居住者の積極的な参画と情報公開等を通じて、高い透明性と安定性を確保する。

5. 関連制度や「地方創生特区」等の活用による政策支援

関連制度等のほか、「地方創生特区」や「地域再生計画」の活用による政策支援を検討。

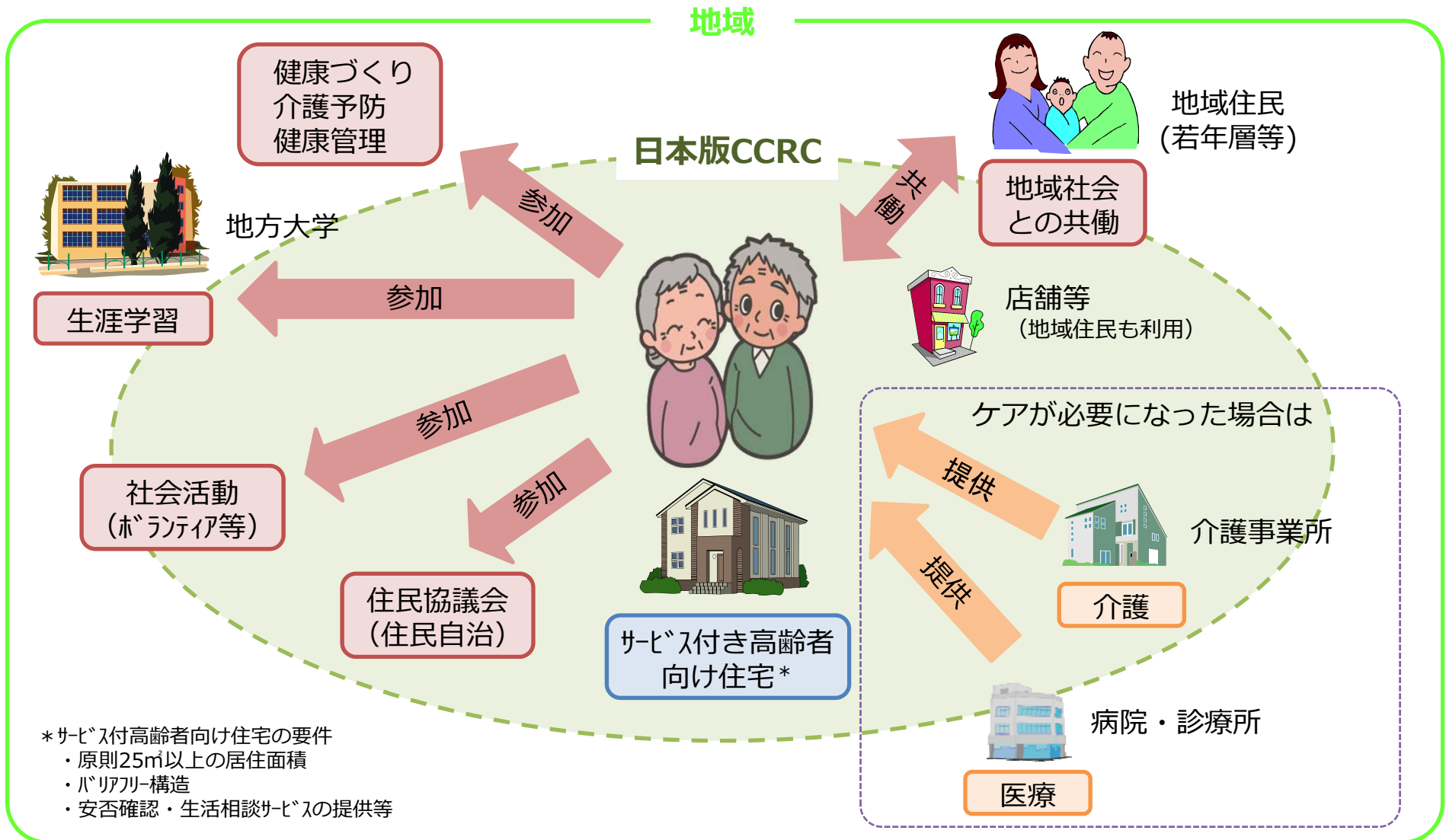
日本版CCRCの制度イメージ（案）

地域の実情等に合わせて、多様な立地・住宅構造・サービス機能によるコミュニティを形成



日本版CCRCにおける高齢者の生活のイメージ（案）

- ①健康でアクティブな生活の実現と継続的ケアの提供、②自立した生活ができる居住環境の提供、③居住者の参画の下、透明性が高く安定した事業運営によるコミュニティの形成を一体的に実現。



※事業の透明性・安定性の確保の方策：居住者の参画、情報公開、事業の継続性確保等